

報道関係 各位

【研究発表】

薔薇の香りに抗うつ効果

～薔薇の香り成分を嗅ぐと抗うつ効果があることをマウスで確認～

川崎医療福祉大学(臨床検査学科)・川崎医科大学(精神科学)・
中村学園大学短期大学部(食物栄養学科)らの共同研究グループ

【概要】

川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床検査学科の上野浩司^{うえのひろし}講師と川崎医科大学 精神科学教室、中村学園大学短期大学部 食物栄養学科らの共同研究グループは、薔薇の香り成分が抗うつ効果を持つことをマウスで確認しました。

薔薇は洋の東西を問わず古くから愛されてきた花で、万葉集でも歌われています。長年の経験から薔薇の香りには癒し効果があるとされ、代替医療ではローズオイルが用いられることもあります。その科学的根拠は明らかではありませんでした。

当研究グループは、マウスを用いた実験で、薔薇の主要な香り成分の1つであるフェニルエタノールがストレスを緩和させ、抗うつ作用を発揮することを確認しました。これは、香り成分が精神状態に影響を与えることを科学的に示すものと言えます。

ストレス社会と言われる中、うつ病などの精神疾患の患者は増加しており、安全で効果的な治療法の開発が求められています。今回の発見は、新たな薬の開発につながる発見であると同時に、新たな投与方法の確立につながる可能性もあります。また、香り成分の精神状態への効果についてマウスを用いて調べる方法を確立したことの意義は大きく、今後の研究への応用が期待されます。

【論文情報等】

本研究論文は、フランスの英文科学雑誌 Biomedicine & Pharmacotherapy に、2018年11月9日以降に掲載予定です。

論文名: Anti-depressive-like effect of 2-phenylethanol inhalation in mice.

著者: Hiroshi Ueno, Atsumi Shimada, Shunsuke Suemitsu, Shinji Murakami, Naoya Kitamura, Kenta Wani, Yosuke Matsumoto, Motoi Okamoto, Takeshi Ishihara

【ポイント】

- ・薔薇の主要な香り成分であるフェニルエタノールが抗うつ作用を持つことをマウスで確認
- ・香り成分の精神状態への効果についてマウスを用いて調べる方法を確立

【今後の展開】

香り成分による精神状態への影響のメカニズムの解明や、香り成分を利用した新たな治療方法・予防方法の開発につながることを期待されます。

<問合せ先> 広報について
川崎医療福祉大学 庶務課
副主任 穂崎紀宏(ほさきのりひろ)
Tel 086-462-1111(代)

<問合せ先> 研究について
川崎医療福祉学 臨床検査学科
講師 上野浩司(うえのひろし)
Tel 086-462-1111(代)